図書館だより
HAKUOH
第51号 2018. 4
白　鷗　大　学

私の読書と音楽

名誉教授
冨　田　英　也

私はどちらかというとあまり読書は好きな方ではないが、私が主に読書をする時は、自分の好きな音楽を聴いた時、その作曲家がどんな心情でイメージしたのか、どの様な状況を音楽に表現しているのかを深く掘り下げたい時である。

その作曲家に関する本や文献を読み、その作品の情報収集をし、心情を思いめぐらせながら音楽を聴いている。私にとって、その曲や音楽家の手がかりとなるような本を探して読むことは、その曲を聴くことと切っても切れない関係である。

例を挙げると、ベートーヴェンやブルックナー、そしてワグナー等の本を手に入れ、彼らの人生がどの様だったのか、どんなことをしていたのか情報を得る。それを踏まえて音楽を聴くとよりいっそう曲のイメージを掴みやすく作曲者と同化することができる。

また、年代によって聴く音楽も変化していることに気付いた。働き盛りの3･40代は元気ではつらつとしたリヒャルト・シュトラウス等の音楽を好んで聴き、中年の頃はバッハの荘厳なミサ曲を聴きその偉大さを感じ、そしてブラームスの何か悩める気持ちに重厚な響きの音楽を感じていた。還暦前後には武満徹のような希望と創造的な音の世界をイメージする音楽を好むようになった。歳を重ねた現在は、苦悩や不安も感じられるが、ほのぼのとした愛や穏やかな面も感じられるマーラーの音楽を好んで聴いている。彼の音楽は必ず声楽のパートが伴い、田舎のような自然の様子や曲風が感じられる。音楽は壮大で長くなかなか内容をつかめない、統一がされておらず全体的に調和していない音楽であり、混沌とした現代社会の特徴を感じられる。少し古いが、映画にもなった有名な第５番の４楽章「ベニスに死す」はそんな状況を醸し出していると思われる。

もちろん新聞の文芸面や関係ある音楽会の批評などの情報収集もあるが、こうした作品を味わえるのはやはり文章による読書のおかげではないかと考える。以上、何か音楽の感想文のようになってしまいましたが、私にとって読書は好きな音楽を聴いてその音楽家についての本を読むことである。

◆図書館スタッフのオススメ本を紹介します

オープンアクセス、機関リポジトリ、クリエイティブ・コモンズ、リンクリゾルバ、DOIなどのデジタル化に関わる技術や知識が整理できます。参考文献も充実しています。

デジタル環境と図書館の未来：これからの図書館に求められるもの
細野公男，長塚隆 共著
日外アソシエーツ
013.8 HO ［大行寺分館］

14歳の人たちに向けて語りかけたものなので、大変分かりやすいです。過去の偉人たちがどう世界を変えていったかを紹介しながら、これからの生きかたを説いたものです。

ミライの授業
瀧本哲史 著
講談社
100 TA ［大行寺分館］

一部読みでも影響を与えてくれる本です。自己啓発の類にあまり興味が無い人でも興味がわき、さらっと読めてしまう内容です。刊行25周年記念版。

完訳7つの習慣：人格主義の回復
スティーブン･R･コヴィー 著／フランクリン･コヴィー･ジャパン 訳
キングベアー出版
159 CO ［大行寺分館］

原書（本学でも所蔵）は、1960年代に発行されたものですが、リッピンコット賞、ヨハン・スクデ政治学賞を受賞している著者の古典的名著です。

代表の概念
ハンナ･ピトキン 著
名古屋大学出版会
311 PI ［新･本館］

著者の第39回サントリー学芸賞（社会・風俗部門）受賞対象となった図書ですが、風俗ではなく戸籍法の場所に配架しています。

戸籍と無戸籍：「日本人」の輪郭
遠藤正敬 著
人文書院
324.87 EN ［新・本館］

仕事や働く事についてよく考察されていて、人生の先輩の言葉を借りて分かりやすくまとめられている本です。

99の名言に学ぶシゴト論。
戸田智弘 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン
366 TO ［大行寺分館］

日本の大学生は勉強しない背景を分析し、今後のあるべき大学教育への指針を、著者たちが行った調査結果も提示しながらまとめた本です。

なぜ日本の大学生は、世界でいちばん勉強しないのか？
辻太一朗 著
東洋経済新報社
377.9 TSU ［大行寺分館］

2007年に発行されて以来、大学生に読み継がれているロングセラーです。2版は旧版に比較して、卒論よりもレポートの書き方が充実した内容になっています。

これからレポート・卒論を書く若者のために
酒井聡樹 著
共立出版
816.5 SA ［新・本館］

ささやき

2017年度末に続き、2018年度も新棟へ資料移設のため、やむを得ず休館期間が発生することになります。利用者の皆様にご不便をおかけすることになってしまい、心苦しい限りです。次号は新棟へ移転後の様子についてもご紹介できる予定です。

平成30年４月１日　発行
編　　集　図書館だより編集委員会
発　　行　白鷗大学総合図書館
〒323-8586　栃木県小山市駅東通り2-2-2
ホームページ　http://hakuoh.jp/library/index.html
印　　刷　第一印刷株式会社

勧められた本・勧める本

法学部教授
杉　山　　務

勧められた３冊の本があります。特許庁に就職し一度は読んでおくべきだということで勧められたのですが、仕事に追われる日々ですぐに読破することはなく、暫くたって読んでみようか、という気になり読み始めました。

その一つは、城山三郎の『官僚たちの夏』です。自分の属する組織が話の場面に出てくるから、今後仕事を続けていくうえで何らかの参考になることもあるだろう、ということでした。

特許庁という職場が決して華々しく表に出てくる話ではないのですが、関連する話題が所どころで紹介され、入庁前の特許庁の様子を伺い知ることができ、興味を持つことができました。聞きなれない言葉があり、日常使うことのない用語の知識をこの本から得たものです。例えば「高文組」など、通常使用しませんし、聞くこともない死語といえるのでしょうが、その存在を知っておくことは、予期しない場面での話題に参加するためだけでなく、業務をスムーズに進めるためにも有益なものでした。

勧める本は、新しい職場に勤め出したら、先輩や上司に尋ねるか、あるいは自分で見つける職場に少しでも関係する本です。自分の会社や組織そのものでなくても、同じ業界でもよいでしょう。あるいは、社長の自伝でも構いませんから、読むことにより、少しばかりの知識が増え、少なくとも自分の属する組織なり業界の用語を知ることとなり、仕事にプラスになることと思います。

自分の属する組織を知ることは何も就職してからだけではありません。白鷗大学で勉学に勤しんでいる人や関係する人に勧める本は、「白鷗大学」と命名する由来となったリチャード・バックの『かもめのジョナサン』です。なぜこの名前を付けることとなったのかを考えることは、意義あることでしょうし、読んだということ自体が意味を持つと考えます。

二つ目の勧められた本は、山岡荘八の『徳川家康』です。長編歴史小説で、1950年から18年間にわたって執筆された、原稿用紙17,000枚を超える大作です。

歴史に興味があれば面白さを感じ一気に読むこととなるでしょう。歴史にあまり興味がなくても江戸幕府を開いた徳川家康についての、興味を持てるシーンもあるでしょうから、是非読んで欲しいと思います。これほどの大作を読みこなすには、かなりの努力と忍耐力が求められ、時間も取られるでしょう。また、ある部分では、興味が全くそそられないこともあるでしょうが、最後まで読む努力を惜しまないことです。

要は、長編の読み物を読破することが肝心であって、映画やテレビを見るように受動的でなく、自分で積極的に読むという意思が大切だと思います。社会人として世の中を渡り歩くには、面白いことでのめり込みすぎることや、逆に逃げ出したくなることがありますが、自分で考え自分の意思で決定することの役に立つこととなるでしょう。

他の本でも構わないでしょうから、勧める本として、日本の小説で最も長いといわれる中里介山の『大菩薩峠』がありますが、私はまだ読み終えていませんので、是非、読破したいですし、紫式部の『源氏物語』も、せめて与謝野晶子の訳によるものをいつか読み終えたいと思っています。

勧められた三冊目の本が何だったか思い出せません。多分、あまり感動を与えなかったか、類似の多くの本に紛れ込んだのでしょう。この頃は、読む本を勧められたのもきっかけでしょうがよく読んでいました。単純な興味で、何の役に立つかということを一切気にもしませんでした。

受験勉強に縛られず、気力も充実していたと今では思う大学生時代に、もっといろいろな本を読んでおけばよかったなあ、と感じています。

図書館ニュース

◆キャンパス名に合わせて図書館名も変わります

Ⓤⓑ 2017年度		Ⓝⓔⓦ 2018年度
本校舎（経営学部・教育学部）	→	大行寺キャンパス（教育学部）
白鷗大学総合図書館（通称：本館）	→	**白鷗大学総合図書館大行寺分館（通称：分館）**
東キャンパス（法学部）	→	本キャンパス（経営学部・法学部）
白鷗大学総合図書館分館（通称：分館）	→	**白鷗大学総合図書館（通称：本館）**

◆夏期の資料移設について

◎経営分野の資料を、本キャンパス図書館へ移設します。
◎一般教養分野の資料は、移設せず大行寺分館にそのまま所蔵されます。
（今後は本キャンパス図書館での一般教養資料の収集にも力を入れますが、当分の間は大行寺分館蔵書をご利用ください。）

◆図書館システム　リニューアル

蔵書検索（OPAC）の画面が新しくなります。